

オオカミ少女はいなかった

アマラとカマラという少女の話聞いたことのある人は多いだろう。インドでオオカミに育てられたという二人は、四足歩行し、生肉に食らいつき、うなり声をあげる。

事実として教科書にも紹介されているが、専門家から見れば、動物が他の種の子供を育てることはありえない。この話を事実と認めた心理学の権威は、二人に会っていない。彼女たちを保護した牧師が残した日記や写真などの証拠は矛盾だらけ。つまり、事実ではないと思った方がいい。

否定的な証拠が多数あるにもかかわらず、「事実」として何度もよみがえるこんな逸話を、実験心理学者である著者は神話と呼ぶ。本書は心理学の世界でくり返し立ち現れ

「神話」の化けの皮はがす心理学

るこうした神話の化けの皮をひとつずつはがしていく。

映画にサブリミナル広告を挿入したことでコーラやポップコーンの売り上げが伸びたという一九五〇年代米国での「実験」もその一つ。これを商売にしようともくろんだ男の発表はセンセーションとなり、真偽を確認しないままメディアが自粛を決めた。

追試も難しいこうした事例に対し、専門家は「たぶんない」というが、厄介なことにこれは、「ひよっとするとある」にたやすく転化し、「事実」に近づいてしまう。俗流心理学があふれ、学問とエンターテインメントの境界があまりにいまない今、事実を見極める目と思考を養う格好の参考書だ。(新曜社・二、六〇〇円)